

さいたま市文化財時報

かや 榎りぼーと

第80号

令和2年度 埋蔵文化財の調査・展示紹介

『埋蔵文化財』とは、地中に「埋蔵」された「文化財」のことで、我々の祖先が造り出したものが地中に保存された、当時の生活を知るための重要な資料です。さいたま市内にも、旧石器時代から近世のものまで、「埋蔵文化財包蔵地」(埋蔵文化財の存在が知られている土地)が1,100か所以上確認されています。

埋蔵文化財は、地中から掘り出してしまうと、元に戻すことができないため、埋もれたままの状態での保存することが望ましいのですが、土木工事などで壊れてしまう場合には、記録として保存するための「発掘調査」を実施します。今年度2月までに市内で実施された発掘調査は、18件ありました。

また、さいたま市では、平成28年の10月から、岩槻区に所在する国指定史跡「真福寺貝塚」の整備に向けた内容確認を目的とした発掘調査を行っています。

今回は、令和2年度に実施された主な調査成果などをご紹介します。

谷の斜面部からミミズク土偶が出土 ～国史跡 しんぷくじ 真福寺貝塚の調査～〈岩槻区〉

東武アーバンパークライン岩槻駅の南東約1.6km、岩槻区城南3丁目に所在する遺跡です。昭和50年に国の史跡に指定されており、史跡整備に向けて内容確認調査を平成28年度から継続して行っています。

今年度は、真福寺貝塚の水辺の活動域に近接する台地縁辺部から谷部周辺の調査を実施しました。調査の結果、谷部では縄文時代後期から晩期の遺物を多量に含む斜面堆積層が厚く堆積し、谷を埋め立てている様相を確認しました。そして後期後葉の時期の斜面堆積層からは、頭部から胴部まで残存するミミズク土偶が出土しました。

今回の調査により、史跡西側の遺跡形成以前の詳細な微地形や土地利用状況などが明らかになりました。来年度も引き続き谷部周辺を調査するとともに、新たに泥炭層地点の調査を実施する予定です。



▲ホームページ
はこちら
「真福寺貝塚
調査最前線」



▲谷部では縄文時代後期の土器が折り重なって出土



▲谷部から出土したミミズク土偶

縄文時代早期と後期の集落跡 ～B-92号遺跡の調査～

〈大宮区〉

JR 大宮駅の西約1.8km、大宮区三橋1丁目に所在する遺跡です。今回はこの遺跡での4回目の調査になります。宅地造成に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和2年9月から12月にかけて実施しました。

調査の結果、縄文時代の住居跡20軒、土坑25基、屋外炉1基、そして土器、石器、土製品等の遺構・遺物を検出しました。

検出された遺構は縄文時代後期を主体とし、縄文時代早期の住居跡や土坑等も見られました。

今回の調査により、遺跡南西端にも縄文時代の活動痕跡が多く所在することが明らかになりました。



▲縄文時代の住居跡から出土した石棒

いろいろ 縄文の家の^{なかはらうしろ}囲炉裏？ ～中原後遺跡の調査～

〈緑区〉

JR 与野駅の東約2.5km、緑区大字三室に所在する遺跡です。今回はこの遺跡での5回目の調査になります。個人住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が令和2年11月に実施しました。

調査の結果、縄文時代中期の炉跡と思われる、内面が熱によって硬化した土坑1基、柱を立てた穴の跡と思われるピット15本、土器の破片などの遺構・遺物を検出しました。

炉跡とみられる土坑は、平面形状が直径約1.2mの円形で、残存部分の深さは約40cmでした。この中からは、縄文時代の深鉢形土器の破片が、重なった状態で出土しました。周囲の柱を立てた穴の跡の配置から、住居の中央付近の床面に炉が掘り込まれていたものとみられます。



▲炉跡から縄文時代の土器破片が出土

縄文時代中期の埋設土器が出土 ～馬場小室山遺跡の調査～

〈緑区〉

JR 東浦和駅から北西に約3km、緑区大字三室に所在する遺跡です。宅地造成に先立ち、さいたま市遺跡調査会が令和2年6月から令和2年10月にかけて調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代中期以前の住居跡1軒・土坑6基、縄文時代中期の住居跡9軒・土坑5基、縄文時代後期の住居跡6軒・土坑8基、縄文時代晩期の遺物包含層2層、縄文時代の土器・石器・土製品などの遺構・遺物が検出されました。

今回の調査では、縄文時代中期の住居跡の上に、縄文時代晩期の遺物包含層が2層確認されており、これらは所謂環状盛土遺構を構成する土層の一部ではないかと考えられます。



▲縄文時代中期の埋設土器の出土状況

平安時代の大きなお塚 ～根切遺跡の調査～

〈西区〉



▲土坑の中から平安時代の塚が出土(根切遺跡)

JR北与野駅の西約2.4km、西区大字島根に所在する遺跡です。今回はこの遺跡での15回目の調査になります。個人住宅の建設に先立ち、さいたま市教育委員会が令和2年5月に実施しました。

調査の結果、古墳時代の住居跡1軒、平安時代の土坑、掘立柱建物跡、古墳時代～平安時代の土器などの遺構・遺物を検出しました。平安時代の円形の土坑からは、縁の部分の直径が20cm以上になる、お塚形の須恵器(登り窯で高温で焼かれた土器)が、半分ほどに割れた状態で出土しました。9～10世紀ごろにつくられたものとみられます。

土器に記された文字の発見 ～下野田稻荷原遺跡の調査～

〈緑区〉



▲平安時代の刻書土器

埼玉高速鉄道浦和美園駅から北西に約0.4km、緑区大字下野田に所在する遺跡です。今回はこの遺跡での16回目の調査になります。土地区画整理事業に伴い、さいたま市遺跡調査会が令和2年6月から令和3年2月にかけて実施しました。

調査の結果、9世紀前半と推定される平安時代の住居跡や土坑が検出されました。注目されるのは、10個体以上の坏が投棄された土坑や、住居跡から発見された「田八」と記された墨書土器と刻書土器です。文字の記された土器は祭祀や儀礼に用いられたともいわれています。

～現地見学会を開催しました～

〈真福寺貝塚〉



▲真福寺貝塚での現地見学会の様子

真福寺貝塚では平成28年度から継続して発掘調査を行うとともに、その成果を市民の方々に知って頂くため、毎年、現地見学会を開催しています。

令和2年度は、11月28日に開催し、当日は、実際に発掘調査を担当している調査員が、今年度の発掘調査を中心に、発掘調査の成果について説明を行いました。どの参加者も調査員の説明に真剣に耳を傾け、熱心に資料を読み込んでいました。

また現地では、今年度の調査で出土した遺物の展示も行いました。新聞などで取り上げられたミミズク土偶も展示し、多くの参加者の関心を集めました。

きゅうせつ 遺
旧 石器

じょうもん
縄 文

やよい
弥 生

こふん
古 墳

なら
奈良

へいあん
平 安

かまくら むらまち せんごく
鎌倉・室町・戦国

えど
江戸

きんげんたい
近現代

10000

200 BC 0 AD 200

400 600

800

1000

1200 1400 1600

1800

2000

埋蔵文化財の展示紹介

さいたま市では、埋蔵文化財の調査のほか、市民の皆様に埋蔵文化財を紹介し、理解を深めていただくための活動も行っています。

令和2年9月から令和2年11月まで、市内の発掘調査の成果をいち早く紹介する「最新出土品展」を、さいたま市立博物館(大宮区)、桜区役所(桜区)、コクーンシティ2(大宮区)の各会場で開催しました。公共施設のほか商業施設で開催したことで、多くの方にご来訪いただきました。

最新出土品展の開催中の9月19日には「さいたま市内遺跡発掘調査成果発表会」を大宮北公民館で開催し、市内の発掘調査成果を各調査担当者が発表しました。発表会終了後は、市立博物館の特別展示室で開催中していた「最新出土品展」にて、発表を行った調査担当者が出土品の展示解説を行いました。参加者からは、「これほどの出土品があることに驚いた」、「分かりやすい説明で興味が持てた」などの声が寄せられました。



▲最新出土品展(コクーンシティ2)

お知らせ

□国指定特別天然記念物「田島ヶ原サクラソウ自生地」の案内

田島ヶ原サクラソウ自生地(桜区田島・桜草公園内)では、サクラソウが例年3月下旬から咲き始め、4月上旬に見ごろを迎えます。サクラソウの開花期に合わせ、3月30日(火)から4月18日(日)までボランティアの方々自生地の魅力を紹介します。春の自生地では、サクラソウをはじめ、ノウルシやヒキノカサなどの希少種を含む様々な植物をご覧いただけます。

※ボランティアによる案内は10時から15時まで。雨天・荒天中止。

サクラソウの開花情報はさいたま市のホームページでお知らせしています。

お越しの際は、マスクの着用、咳エチケット、人との距離の確保等の感染症対策をお願いいたします。



▲サクラソウ



▲田島ヶ原サクラソウ自生地



▲ホームページは
こちら
「サクラソウ開花状況」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止や内容を変更する場合があります。
詳しくは、市ホームページをご覧ください。